

令和8年度 校内研修計画

(1) 研修の目的

- ① 学校教育目標の具現化のために、学園生の実態に即し、創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開を推進する。
- ② 専門職としての自覚に立ち、研修を通じて、教師としての資質・指導力の向上を図り、学園生の生きる力を育む。

(2) 研究の方針

- ① 全職員の共通理解の下、研究主題に迫るため、学園全体制で授業研究及び日々の授業実践を中心に研究を推進する。
- ② 研究内容は、「主体性・協働性・創造性」を高める授業の展開を模索し、授業改善を図る。
- ③ 各ステージや部会相互の連携を密にし、研究の効率化・円滑化を図る。
- ④ 研究実践を積み上げていく中で、学園生の変容や成果を的確にとらえ、その成果を評価しながら研究を推進する。
- ⑤ 情報収集に努め、各指導機関からの指導・助言を受けるとともに、地域・保護者との連携を図りながら、研究を推進する。

(3) 本年度研究主題

主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成

(4) 主題設定の理由

① 本村の取組から

本村の教育改革の理念は、「産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造～0歳から生涯にわたる魅力ある教育を目指して～」である。「じっくり・しっかり・のびのび」をキーワードに、特色ある教育課程、コミュニティ・スクール、ヒゴタイ交流を核とした英語教育の充実、ICT教育の推進で、系統性・連続性のある確かな学びの確立を行い、産山村の児童生徒に適した教育内容の創造に取り組んでいる。また令和7年度には、「第3期産山村教育大綱」が策定され、グローバル化の進展や急速な技術革新など変化の激しい社会に対応できる能力を身に付けるとともに、どのような予測困難なことがあっても主体的に学び、判断し、行動し、未来を切り拓いていく「生きる力」が必要とされている。さらに、SDGsの理念に沿った「誰一人取り残さない、持続可能な社会」の実現に向けた視点の学びも、より一層重要視されている。これらのことから、義務教育学校の特性を生かし、教育効果を上げ、子どもたちに「生きる力」を身に付ける

ことが求められている。

② 産山学園生の課題から

【HP 省略】

③ 「主体的」に学ぶとは

学園生が自分たちで課題解決に向け、探究的・協働的に学習し、達成感・充実感をもつ姿を目指す。学園生の思いから学習が展開され、学園生が当事者意識を持って行動し、自分なりの学びを創り出していくことが可能となるように、教師は、単元構想、学園生の学びの支え方、評価等を探っていく。また、各学年、各教科、地域の特性を生かし、体験活動や表現活動の経験を自信に変えて、「次もやってみよう」と未来に自らの学びを進めようとする「学びに向かう力」を身に付けた学園生の姿に表れて欲しいという願いを込め、本研究主題を設定した。

④ 義務教育学校の特性を効果的に進める取組から

令和7年度の研究の成果と課題をふまえ、「ステージ制度」を生かしながら、9年間の学びの連続性を意識した取組を職員の共通理解と共通実践により効果的に進め、学園生の学力向上を図っていききたい。

※ステージ制度：ファーストステージ1～4年／セカンドステージ5～7年／サードステージ8～9年

(5) 「産山型学習」（熊本の学びの自校化）について

「産山型学習」とは、小中一貫教育における9年間を通して、「確かな学力」を育てる学習過程である。そのねらいは以下のとおりである。

- ① 学園生の主体的な学習を促すために課題解決学習を取り入れ、自ら学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。
- ② 思考力・判断力・表現力等を養うために、考えを練り上げるための個人思考の場や小集団思考の場を設けたり、学園生が学び方を選択したりできるようにする。
- ③ 思考の流れに沿った到達基準を設けて形成的評価を行い、成就感・達成感をもたせるとともに、知識・技能の定着や、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

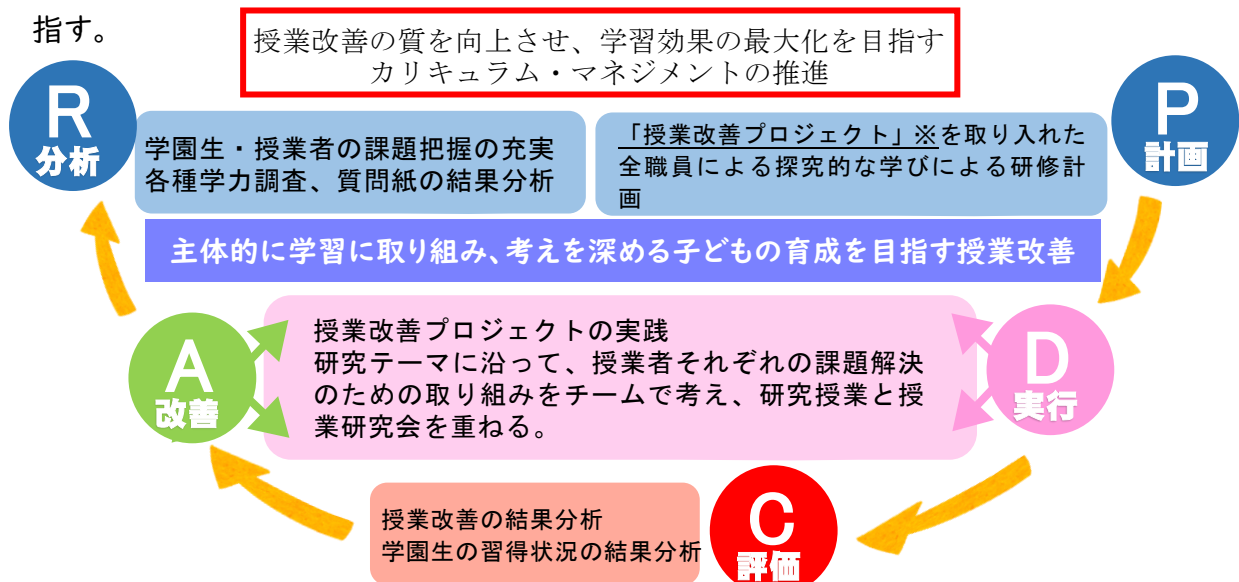
(6) 研究の柱と内容①の重点事項

研究主題 主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成		
内容1		内容2
実態をもとにした授業改善		学びとくらし、地域をつなぐ教育活動の充実
読み解く力を 基盤として	① 協働的な学びの充実 ② 振り返りの質の向上	① ヒゴタイ・イングリッシュの充実 ② うぶやま学の充実 ③ チャレンジ学習の充実

Thinking 学園生が考える授業	Teamwork 多様な仲間と学び合う授業	Challenge 成長を自覚し次へ挑む授業
重点事項①		重点事項②
協働的な学びの充実		振り返りの質の向上
○ 教師が「教える」から、多様性を強みに変え学園生同士が「教え合い、高め合う」授業への転換を図る。		○ 学園生が、自身の言葉で語り、変容を自覚できる振り返りを目指す。

(7) 研究の方法

本サイクルを通して、授業者自身が授業を省察し、主体的に授業改善に取り組むことを目指す。



(8) 研究構想図

校訓

We have a dream 私たちには夢がある

学校教育目標

ふるさとを誇りとし 夢や目標に向かって 主体的に考え行動する 学園生の育成

研究テーマ

主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成

内容①

実態をもとにした授業改善

- ① 協働的な学びの充実
- ② 振り返りの質の向上

Teamwork

9年間を
見通した

Challenge

つなぐ つながる
カリキュラム

Thinking

内容②

学びとくらし、地域をつなぐ
教育活動の充実

- ① ヒゴタイ・イングリッシュ
- ② うぶやま学
- ③ チャレンジ学習

人権教育の視点・ICT 教育の推進

信頼される学校づくり

コミュニティ・スクール

地域と連携した居場所づくり

学園生の実態・願い

地域学校協働本部
(学校応援隊)

保護者・産山村の願い

